

資料－1

平成27年度宮崎県道路メンテナンス会議(第1回)

国土交通省 九州地方整備局 提供資料

平成27年5月13日

資料1

【1. 道路インフラを取り巻く現状】

(1) 道路インフラの現状

- 全橋梁約70万橋のうち約50万橋が市町村道
- 一部の構造物で老朽化による変状が顕在化
- 地方公共団体管理橋梁では、最近5年間で通行規制等が2倍以上に増加

(2) 老朽化対策の課題

- 直轄維持修繕予算は最近10年間で2割減少
- 町の約5割、村の約7割で橋梁保全業務に携わっている土木技術者が存在しない
- 地方公共団体では、遠望目視による点検も多く点検の質に課題

(3) 現状の総括(2つの根本的課題)

最低限のルール・基準が確立していない ↔ メンテナンスサイクルを回す仕組みがない

【2. 国土交通省の取組みと目指すべき方向性】

(1) メンテナンス元年の取組み

本格的にメンテナンスサイクルを回すための取組みに着手

- 道路法改正【H25.6】
 - ・点検基準の法定化
 - ・国による修繕等代行制度創設
- インフラ長寿命化基本計画の策定【H25.11】
 - 『インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議』
⇒インフラ長寿命化計画（行動計画）の策定へ

(2) 目指すべき方向性

- ①メンテナンスサイクルを確定 ②メンテナンスサイクルを回す仕組みを構築

産学官のリソース(予算・人材・技術)を全て投入し、総力をあげて本格的なメンテナンスサイクルを始動【道路メンテナンス総力戦】

資料2

【3. 具体的な取組み】

(1) メンテナンスサイクルを確定(道路管理者の義務の明確化)

各道路管理者の責任で以下のメンテナンスサイクルを実施

[点検]

- 橋梁(約70万橋)・トンネル(約1万本)等は、国が定める統一的な基準により、5年に1度、近接目視による全数監視を実施
- 舗装、照明柱等は適切な更新年数を設定し点検・更新を実施

[診断]

○統一的な尺度で健全度の判定区分を設定し、診断を実施
『道路インフラ健診』 (省令・告示：H26.3.31公布、同年7.1施行予定)

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

[措置]

- 点検・診断の結果に基づき計画的に修繕を実施し、必要な修繕ができない場合は、通行規制・通行止め
- 利用状況を踏まえ、橋梁等を集約化・撤去
- 適切な措置を講じない地方公共団体には国が勧告・指示
- 重大事故等の原因究明、再発防止策を検討する『道路インフラ安全委員会』を設置

[記録]

- 点検・診断・措置の結果をとりまとめ、評価・公表(見える化)

(2) メンテナンスサイクルを回す仕組みを構築

メンテナンスサイクルを持続的に回す以下の仕組みを構築

[予算]

- (高速) ○高速道路更新事業の財源確保(通常国会に法改正案提出)
- (直轄) ○点検、修繕予算は最優先で確保
- (地方) ○複数年にわたり集中的に実施する大規模修繕・更新に対して支援する補助制度

[体制]

- 都道府県ごとに『道路メンテナンス会議』を設置
- メンテナンス業務の地域一括発注や複数年契約を実施
- 社会的に影響の大きな路線の施設等について、国の職員等から構成される『道路メンテナンス技術集団』による『直轄診断』を実施
- 重要性、緊急性の高い橋梁等は、必要に応じて、国や高速会社等が点検や修繕等を代行(跨道橋等)
- 地方公共団体の職員・民間企業の社員も対象とした研修の充実

[技術]

- 点検業務・修繕工事の適正な積算基準を設定
- 点検・診断の知識・技能・実務経験を有する技術者確保のための資格制度
- 産学官によるメンテナンス技術の戦略的な技術開発を推進

[国民の理解・協働]

- 老朽化の現状や対策について、国民の理解と協働の取組みを推進

資料4

資料5

資料6

資料7

資料8

資料9

資料10

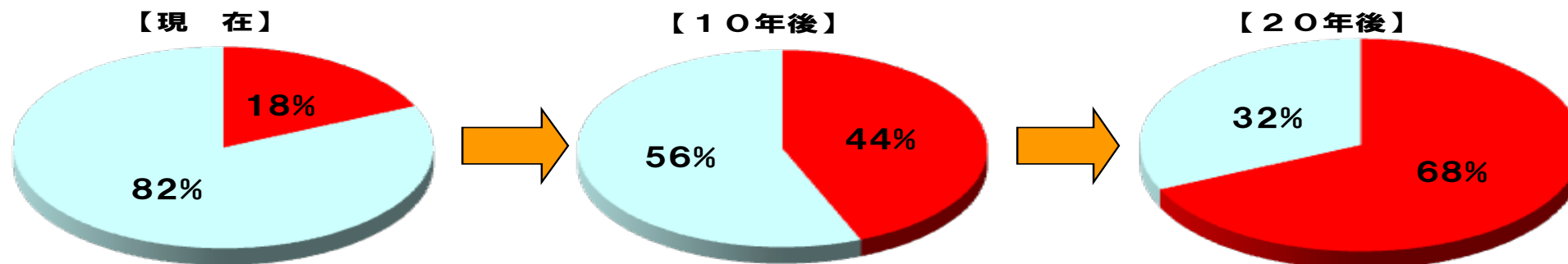
資料11

道路施設の現状（高齢化の割合）

◆建設後50年以上（高齢化）の割合

橋梁

・九州における橋梁（橋長2m以上）のうち、建設後50年以上経過する橋梁は18%（2012時点）で、10年後（2022年）には44%、20年後（2032年）には68%と半数以上に拡大します。



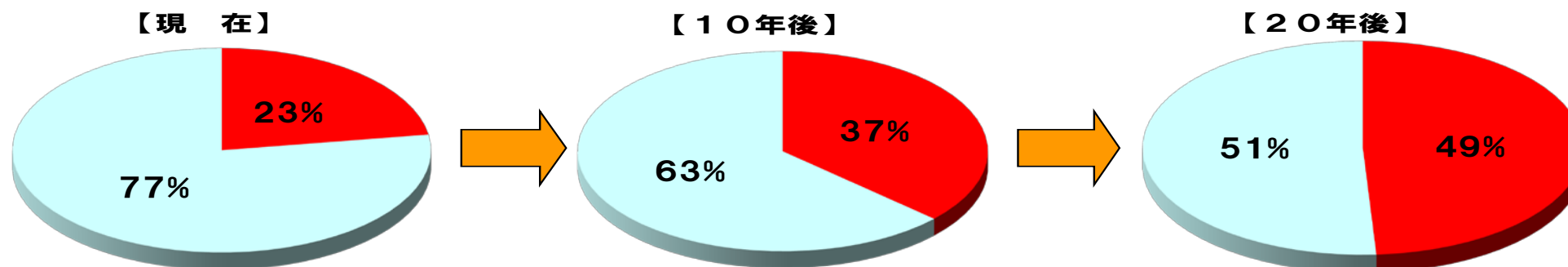
建設後50年以上経過の橋梁の割合（10年単位）

注）・建設年次が把握されている約6万橋で整理

・建設年次が「明治以前」となる施設は「1867年開通（明治元年=1867年）」として整理

トンネル

・九州におけるトンネルのうち、建設後50年以上経過するトンネルは23%（2012時点）存在し、10年後（2022年）には37%、20年後（2032年）には49%と約半数に拡大します。



建設後50年以上経過のトンネルの割合（10年単位）

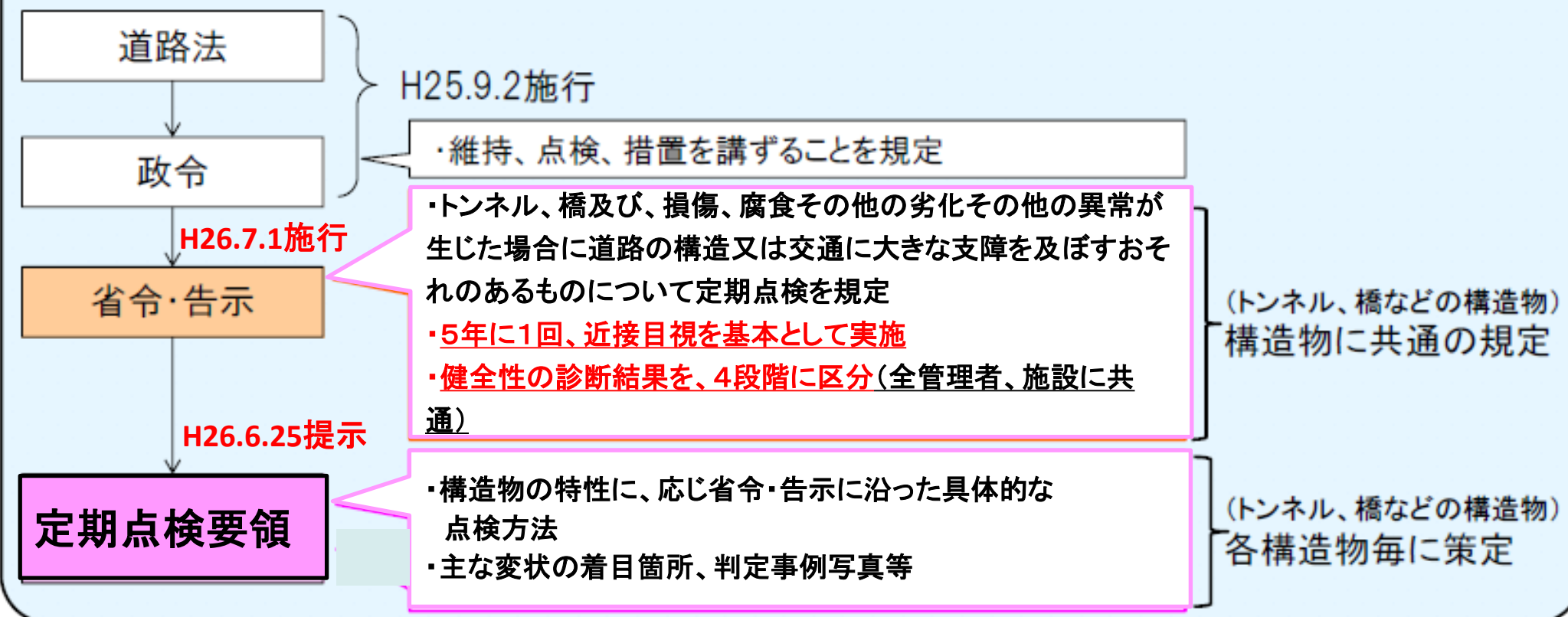
注）・建設年次が把握されている1,624箇所を整理

・建設年次が「明治以前」となる施設は「1867年開通（明治元年=1867年）」として整理

点検に関する法令関係

- ①省令・告示で、5年に1回、近接目視を基本とする点検を規定、健全性の診断結果を4つに区分。
(トンネル、橋などの構造物に共通)
- ②市町村における円滑な点検実施のため、点検方法、主な変状着目箇所、判定事例写真等を加えたものを定期点検要領としてとりまとめ。(トンネル、橋などの構造物毎)

法令・定期点検基準の体系



点検・診断結果を踏まえた措置方針

資料3

- 市町村における点検・診断結果は、道路メンテナンス会議で評価
- 判定区分Ⅳ（緊急措置段階）の橋梁等は、「通行止め」「通行規制」もしくは「応急措置」等を実施した上で、「修繕」「更新」「撤去」のいずれかの措置方針を速やかに決定

【点検・診断結果の評価】

- (1)道路メンテナンス会議において、各道路管理者ごとの点検・診断結果を集計し、共有
- (2)各道路管理者の責任の下、(1)を参考に自らの点検・診断結果をチェックし、必要に応じて対応。そのうえで、判定区分割合は最終的に公表

定期点検結果を踏まえた橋梁の判定区分割合(イメージ)

判定区分	I	II	III	IV
橋梁	〇%程度	〇%程度	〇%程度	〇%程度

※橋梁の築年数、交通・地形・気象等の環境等を考慮した分類を検討

※判定区分 I:健全 II:予防保全段階 III:早期措置段階 IV:緊急措置段階

【判定区分Ⅳとされた施設の措置】

- (1)「**通行止め**」「**通行規制**」もしくは「**応急措置**」等を実施した上で措置方針を速やかに決定し、道路メンテナンス会議へ報告
- (2)措置方針は「**修繕**」「**更新**」「**撤去**」のいずれかから**選択**するとともに、**その実施時期を明確化**

【緊急対応事例】

- 兵庫県高砂市 ^{たかさご}谷川橋 ^{たにがわ}
1972(昭和47年)開通:43歳

【経緯(平成27年)】

○2月4日:定期点検で、
著しい断面欠損を確認



- 2月5日:学識経験者へ意見聴取→**判定区分Ⅳと診断**
- 2月7日～:**通行止め**(緊急対応)
- 平成27年度内:修繕工事を実施予定

- 愛知県犬山市 ^{いぬやま}彩雲橋 ^{さいうんばし}
1929(昭和4年)開通:86歳

【経緯(平成27年)】

○2月19日:定期点検で、**Co支柱の傾斜・洗掘を確認(判定区分Ⅳの疑い)**

Co支柱の傾斜、下面岩盤接着部の洗掘



Co支柱の下面岩盤接着部の洗掘

※毎日、変状を確認するため犬山市によりパトロールを実施

- 3月4日:犬山市から名古屋国道事務所へ**支援要請**
- 3月4日:中部地方整備局職員が現地確認、技術的助言
→**道路管理者の判断として、判定区分Ⅲと診断**

道路事業における防災・安全交付金の重点配分の例（H27概算）

※H27道路関係予算概要(H27.1)より

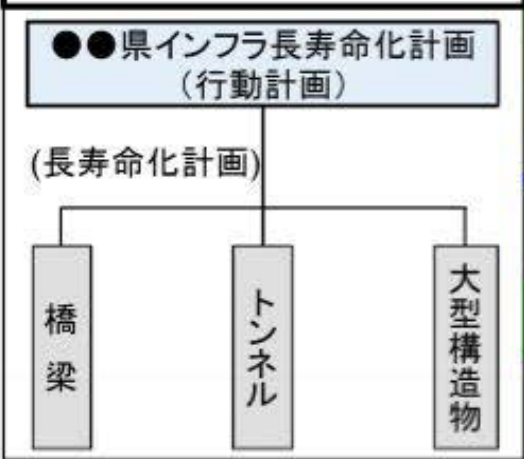
資料4

道路施設の適確な維持修繕の推進

道路法施行規則第4条の5の2の
規定に基づく
定期点検〔基幹事業〕



**長寿命化計画の策定
〔基幹事業〕**



修繕・更新〔基幹事業〕



**橋梁等の撤去
〔効果促進事業〕**



道路事業における防災・安全交付金の重点配分の例（H27概算）

※H27道路関係予算概要(H27.1)より

資料4-2

通学路の要対策箇所における安全の確保

【対策検討メンバー】

- ・教育委員会、学校、PTA
- ・道路管理者
- ・警察署
- ・利用者団体

・歩くのに電柱が邪魔になり、車道へ入り込む



＜対策メニュー＞

- ・無電柱化

・狭い歩道の中にバス停があり、バスを待つ人がある場合など危険



＜対策メニュー＞

- ・バス停周辺歩道整備

・自転車と徒歩通学する児童が錯綜し危険



＜対策メニュー＞

- ・自転車通行空間の整備

・踏切内の歩行空間が狭く、児童と車が輻輳し危険



＜対策メニュー＞

- ・踏切の拡幅

・国道の渋滞を避けて抜け道として利用する大型車が多いが、歩道がなく危険



＜対策メニュー＞

- ・大型車通行禁止
- ・狭さく、ハンプの設置

・歩道の幅員が狭く、また段差がある箇所があり転倒の危険



＜対策メニュー＞

- ・歩道拡幅
- ・バリアフリー化



--- : 通学路(学校指定)

● : 要対策箇所

道路事業における社会資本整備総合交付金の重点配分の例（H27概算）

※H27道路関係予算概要(H27.1)より

ICアクセス道路等の整備

資料4-3

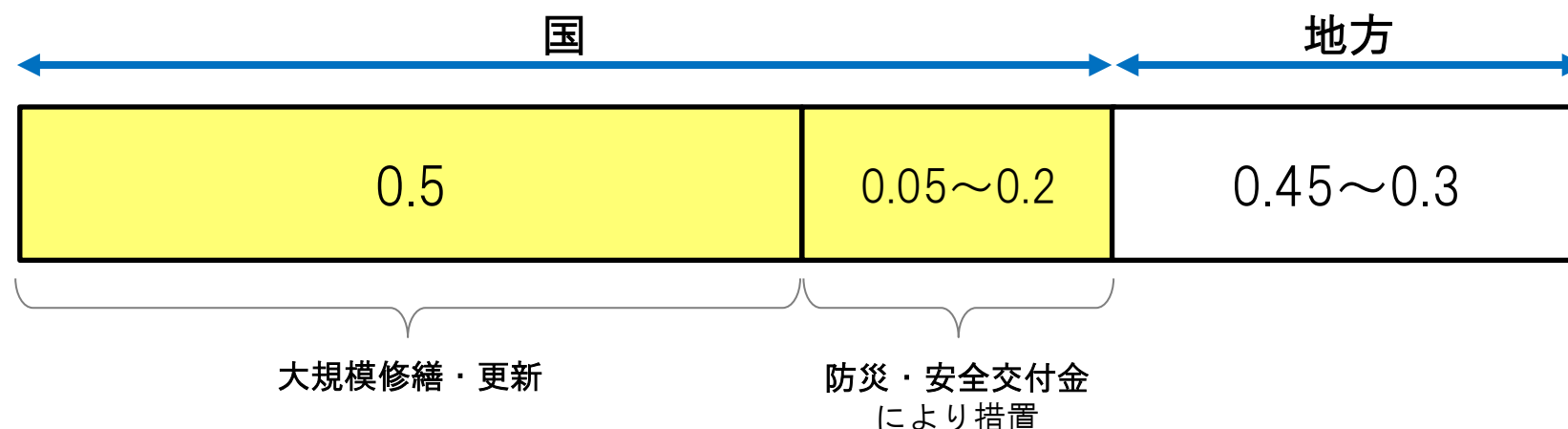


○地方公共団体における大規模修繕・更新を複数年にわたり集中的に支援するため、
新たな個別補助制度（大規模修繕・更新事業）及び当該制度に係る国庫債務負担行為
制度を創設する。

新たな個別補助制度

補助率：現行法令通り

（ただし、現行の交付金国費率までの範囲内で、当該補助率を上回る分について防災・安全交付金により措置）



➡ 個別の事業毎に採択するため、課題箇所確実に予算が充当

要件

- ・都道府県・政令市の管理する道路の場合：全体事業費100億円以上
- ・市区町村の管理する道路の場合：全体事業費 3億円以上 のものに限る

「道路メンテナンス会議」について

地方公共団体の三つの課題(人不足・技術力不足・予算不足)に対して、国が各都道府県と連携して、支援方策を検討するとともに、それらを活用・調整するため、『道路メンテナンス会議』を設置

現状の問題点

・地方公共団体における三つの課題(人不足・技術力不足・予算不足)により、点検が進まない、点検結果の妥当性が確認できない、適切な修繕等が実施できない。

新たな対応

・国が各都道府県と連携し、『道路メンテナンス会議』を設置する。

〈体制〉

都道府県毎に以下の構成員により設置

- ・地方整備局(直轄事務所) ・地方公共団体(都道府県、市町村) ・道路公社
- ・高速道路会社(NEXCO、首都高速、阪神高速、本四高速、指定都市高速等)

〈役割〉

- ① 研修・基準類の説明会等の調整
- ② 点検・修繕において、優先順位等の考え方に該当する
路線の選定・確認
- ③ 点検・措置状況の集約・評価・公表
- ④ 点検業務の発注支援(地域一括発注等)
- ⑤ 技術的な相談対応



宮崎県道路メンテナンス会議の状況

◆平成26年度

○「定期点検要領」の策定

（道路橋、道路トンネル、シェッド、大型カルバート等、横断歩道橋、門型標識等の直轄、自治体版の要領を策定）

○各県道路メンテナンス会議の開催

- ・第1回 ・会議の立ち上げ、設立趣意、規約等の承認
- ・第2回 ・点検計画の策定に向けて情報の共有
- ・第3回 ・橋梁やトンネルなどの5カ年の点検計画を策定、公表

○メンテナンスに関する研修の実施

（各県において、橋梁・トンネル等の研修を実施）

○老朽化に関する広報の実施

（ホームページの開設、パネル展示などを実施）

○九州地方連絡会議、跨道橋連絡会議開催の開催

（跨線橋、跨道橋等に関する連絡調整会議を実施）



▲道路メンテナンス会議 大分県開催状況



▲鹿児島県内での研修等、実施状況

◆平成27年度【予定】

下記について、各県道路メンテナンス会議で議論予定

- ・平成26年度の点検結果の取りまとめ
- ・点検計画に基づいた定期点検の実施状況
- ・情報の把握・蓄積。情報の共有化・見える化など



▲国民への発信(パネル展の実施状況)10

◆開催（平成27年度第1回予定）

名 称	開催日(予定)
福岡県道路メンテナンス会議 (会長:福岡国道事務所長)	H27年5月15日
佐賀県道路メンテナンス会議 (会長:佐賀国道事務所長)	H27年5月20日
長崎県道路メンテナンス会議 (会長:長崎河川国道事務所長)	H27年5月15日
熊本県道路メンテナンス会議 (会長:熊本河川国道事務所長)	H27年5月20日
大分県道路メンテナンス会議 (会長:大分河川国道事務所長)	H27年5月11日
宮崎県道路メンテナンス会議 (会長:宮崎河川国道事務所長)	H27年5月13日
鹿児島県道路メンテナンス会議 (会長:鹿児島国道事務所長)	H27年5月29日



道路事業における地域一括発注の取組について

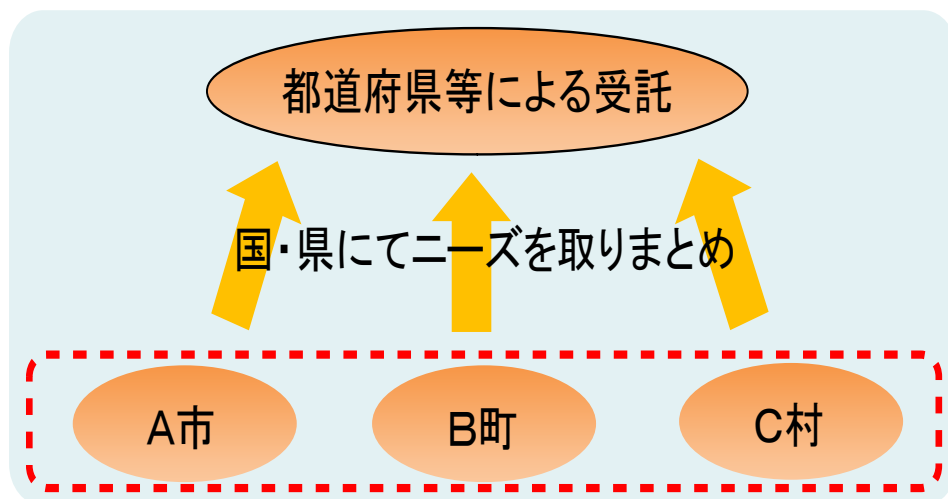
○市町村の人不足・技術力不足を補うために、市町村が実施する点検・診断の発注事務を都道府県等が受委託することで、地域一括発注を実施

※平成26年度は、九州では、福岡、長崎、宮崎、鹿児島で実施

※平成27年度は、九州では、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島で実施

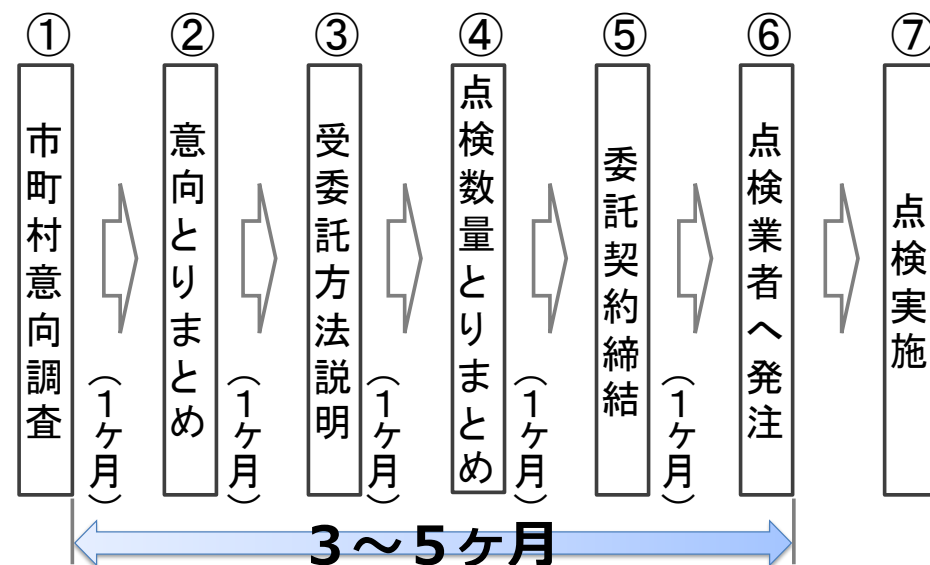
【イメージ図】

- 市町村のニーズを踏まえ、地域単位での点検業務の一括発注等の実施



【手続きの流れ】

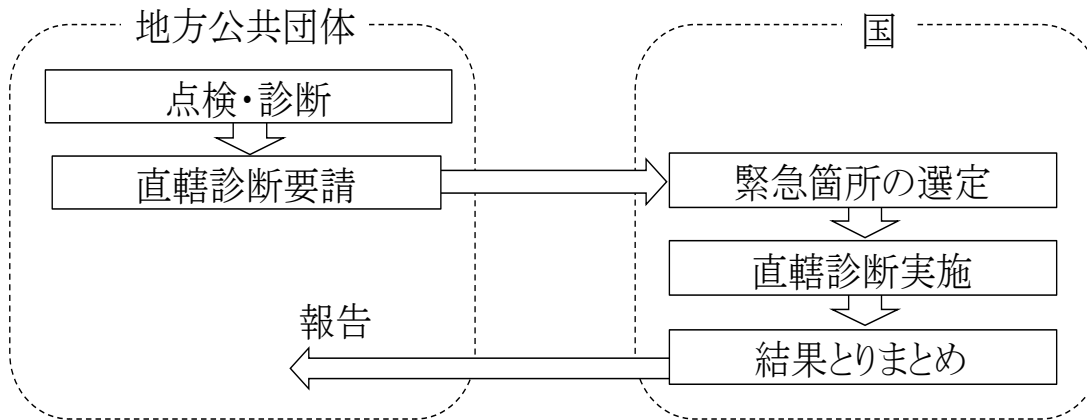
- 国、都道府県にて市町村の意向調査を実施し、点検数量をとりまとめた上で、点検業者へ発注



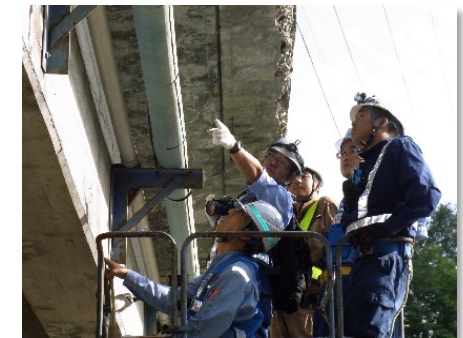
- 地方公共団体への支援策の一つとして、緊急かつ高度な技術力を要する可能性が高い橋梁について、「直轄診断」を試行的に実施
- 直轄診断を実施した橋梁については、各道路管理者からの要請を踏まえ、修繕代行事業や大規模修繕・更新補助事業の着手を検討

直轄診断:「橋梁、トンネル等の道路施設については、各道路管理者が責任を持って管理する」という原則の下、それでもなお、地方公共団体の技術力等に鑑みて支援が必要なもの(複雑な構造を有するもの、損傷の度合いが著しいもの、社会的に重要なもの、等)に限り、国が地方整備局、国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所の職員で構成する「道路メンテナンス技術集団」を派遣し、技術的な助言を行うもの。

【全体の流れ】



【直轄診断の実施状況】



【H26直轄診断実施箇所と診断結果概要】

■三島大橋(福島県三島町)

アーチにおける継ぎ手部の高力ボルトについて、ゆるみ・脱落しているものが多数発見



■大前橋(群馬県嬬恋村)

床版、高欄部等におけるひびわれ部から水が内部に侵入し、鉄筋の腐食が進行

なお、大型車通行規制の解除を行うためには架替が必要



■大渡ダム大橋(高知県仁淀川町)

メインケーブルの防食部の腐食が進行し、内部のケーブル素線が剥き出し状態



今後の跨道橋・跨線橋の対応について

上の管理者 下の管理者		高速会社	直轄	公社	都道府県 市区町村	道路法外	
						その他	鉄道
	高速会社	道路メンテナンス会議 【都道府県単位で設置済み】				跨道橋 連絡会議 (仮称) 【道路メンテ ナンス会議の 下部組織】	地方連絡会議
	直轄						<事務局> 整備局 運輸局
	公社					<事務局> 国道事務所	
	都道府県 市区町村 ※緊急輸送道路					 	 
道路 法外	その他	個別協議				_____	_____
	鉄道	地方連絡会議(整備局毎に設置済) <事務局>整備局・運輸局					_____

【跨道橋の点検について】

- ・跨道橋については、第三者への被害防止のために、優先的に点検を実施。
- ・緊急輸送道路*を跨ぐ施設のうち、鉄道橋を除く、道路法上の道路以外の施設（農道、林道、認定外道路、私道、水管橋等）の点検・診断、補修等の状況把握のため、**「跨道橋連絡会議」（議長：国道事務所長）を道路メンテナンス会議の下部組織として設置**（H27.3開催）⇒H27年度も状況を把握し点検を要請

*高速道路、直轄国道、公社道路は全ての道路を対象

【跨線橋の点検について】

- ・九州地整は、JR九州等と跨線橋点検に関する包括協議を行い、九州管内全ての道路管理者の、**5年間の跨線橋点検計画を含んだ確認文書を締結**（H27.4）。
- ・今後、**H26年度の点検実施状況を精査**し、状況を踏まえ、JRと再度協議して、跨線橋点検計画を見直し。
- ・各道路管理者は、跨線橋点検にあたり、鉄道事業者と橋梁毎の個別協定を締結。

＜JR九州関係の跨線橋点検計画（H27.4）の跨線橋数（精査中）＞

	H26	H27	H28	H29	H30	合計
九州全体	150	212	164	138	131	795
宮崎県	15	31	15	9	17	87

高速道路跨道橋の点検状況について

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

平成27年2月10日
道路局

高速道路跨道橋の点検状況について

高速道路を跨ぐ橋梁（以下、「高速道路跨道橋」）に関しては、平成25年10月に会計検査院が高速道路6会社[※]に処置要求、平成26年6月には参議院警告決議がなされ、点検の実施や必要な補修を行うことが求められています。

これを受けて、国土交通省では、道路法上の道路に指定されている高速道路跨道橋に関して、平成26年度内にすべて点検を完了する予定であり、引き続き省令に基づく5年に一度の近接目視点検を行いながら、必要な補修を実施することとしています。

また、高速道路6会社に、高速道路跨道橋の管理者との情報共有体制の構築や、管理者に対して点検や補修の実施を要請するよう指示し、自らも高速道路跨道橋の所管省庁に、同様の要請を行ってきました。

さらに、管理者が老朽化した高速道路跨道橋を撤去する取り組みもはじまっています。このたび、これらの取り組みの一環として、平成27年1月1日時点の高速道路跨道橋の点検状況などを取りまとめましたので、お知らせします。

〈高速道路跨道橋の点検状況〉

高速道路跨道橋の総数 (①)	5,798橋
平成27年1月1日時点で点検済みの跨道橋数 (②)	5,415橋
点検実施率 (②/①)	93%
平成27年3月末までに点検済みとなる跨道橋数 (③)	5,469橋
点検実施率 (③/①)	94%

今後も引き続き、高速道路のすべての跨道橋が速やかに点検されるよう取り組むとともに、定期的な点検や必要な修繕を促し、老朽化に備えることで、高速道路利用者の安全を確保してまいります。

※東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社、首都高速道路株式会社、阪神高速道路株式会社

（参考）跨道橋を含む橋梁の老朽化対策の取り組み

高速道路跨道橋の取り組み

■情報共有体制の構築

- 国土交通省の「道路メンテナンス会議」、高速道路会社の「跨道橋連絡協議会」を通じて情報共有を図るとともに、点検推進を支援

跨道橋連絡協議会での取り組み

- 跨道橋連絡協議会の概要
(平成25年12月までに全都道府県毎に設置)

【対象】
高速道路を跨ぐ跨道橋（道路法外の跨道橋も含む）

【体制】

- ・ 高速道路会社
- ・ 地方整備局
- ・ 地方公共団体
- ・ 道路公社
- ・ 民間会社 等



協議会開催状況

- 取り組み状況等

- 情報共有
- 点検実施の要請
- 新たに道路メンテナンス会議の下部組織として設置される「跨道橋連絡協議会(仮称)」へと発展的に改組(平成26年度内)

■技術協力、点検・補修の促進

- 高速道路会社が市町村等の跨道橋管理者から受託し、点検、補修を実施



点検実施状況



補修実施状況

平成26年度の受託・請負状況(平成27年1月1日時点)

- ・ 点検: 108自治体、432橋
- ・ 補修: 45自治体、103橋

■所管省庁への要請

- 点検未実施の跨道橋管理者の所管省庁に、点検促進を要請する文書を出発

道路法以外の施設で、点検未実施の跨道橋に関しては、管理者及び所管省庁に、速やかな点検や必要な補修の実施を要請

道路橋全体での取り組み

■点検義務の明確化

- 道路法施行規則を改正し、5年に1度、近接目視による全数監視を実施
- 円滑な点検実施のため、変状の着目箇所等を記載した定期点検要領を策定

□ 道路法施行規則(平成26年3月31日公布、7月1日施行)(抄)

(道路の維持又は修繕に関する技術的基準等)
点検は、近接目視により、5年に1回の頻度で行うことを基本とすること。

□ 定期点検要領(平成26年6月)

【対象となる道路橋梁】

- ・ 道路橋
- ・ 道路トンネル
- ・ シェッド、大型カルバート等
- ・ 橋脚・歩道橋
- ・ 門型橋梁等



■体制の構築

- 平成26年7月までに全都道府県毎に「道路メンテナンス会議」を設置し、情報共有を図るとともに効果的な点検実施推進を支援

□ 道路メンテナンス会議

- 【体制】
- ・ 地方整備局(高速事務所)
- ・ 地方公共団体
- ・ 高速道路会社
- ・ 道路公社



会議開催状況

跨道橋の点検推進に向けた取り組み

- 高速道路上の跨道橋のうち、道路法上の橋梁は平成26年度内に全て点検完了予定
- 道路法以外の跨道橋の点検推進のため「跨道橋連絡協議会」を平成26年度内に設置し、引き続き管理者及び所管省庁に点検実施を要請

道路構造物のメンテナンス

■地方自治体への支援（各種研修等）

※H26年度実績:延べ440名の地方公共団体職員(約90市町村)が受講

【H27年度研修（計画）】

①道路構造物管理実務者研修

〈5日間、九州技術事務所〉

対 象:自治体職員及び直轄職員

予定人数:160名程度(うち自治体職員100名程度)

時 期:橋梁Ⅰ H27.8.3～8.7 及び H27.9.28～10.2

橋梁Ⅱ H27.11.9～11.13

トンネル H27.8.24～8.28 各40名程度

目 的:地方公共団体の職員の技術力育成のため、点検要領に基づく点検に必要な知識・技能等を取得するための研修。

募集時期:5月下旬～6月下旬(予定)



②メンテナンス研修:橋梁

〈1～2日間、各県内毎に開催(県独自の研修と共催を調整中)〉

対 象:自治体職員(及び直轄職員)

予定人数:1会場40名程度

時 期:7月以降

目 的:管理者又は発注者として必要な知識の習得を目的として、橋梁、トンネルに係る点検要領の理解に係わる講義



<点検パネル展・「道の駅」やよい>



<点検パネル展・「道の駅」おおさき>



<点検パネル展・土木フェスタ(鹿児島)>



市町村支援(橋梁点検現場見学会)

資料-2-1

平成26年度の実施例

平成26年12月2日

国土交通省
九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
延岡河川国道事務所

宮崎県
国土整備部 道路保全課

記者発表資料

橋梁点検の現場見学会を開催します。

メンテナンス体制を強化するため、地方公共団体の職員を対象にした研修を充実。

「宮崎県道路メンテナンス会議」での自治体への支援方策の一環として、国土交通省が宮崎県内で行う橋梁の近接目視点検状況を各市町村の技術職員の方々に見学していただき、各市町村が行う道路施設の保全業務に活用してもらうことを目的として、下記のとおり見学会を開催します。

■橋梁点検現場見学会

- 日時 場所
 - ①平成26年12月 5日(金) 13:30~15:30 国道10号宮崎大橋 (宮崎市大塚町)
 - ②平成26年12月 9日(火) 13:30~15:30 国道220号小内海橋 (宮崎市内海)
 - ③平成26年12月10日(水) 13:30~15:30 国道10号沖水橋 (都城市吉尾町)
 - ④平成26年12月16日(火) 13:30~15:30 国道220号木崎大橋 (宮崎市郡司分)
 - ⑤平成26年12月19日(金) 13:30~15:30 国道10号徳野橋 (延岡市北川町)

(日時、場所については別紙-1を参照)
- 内容 橋梁の近接目視点検(損傷の位置、程度を把握します。)
点検イメージは、別紙-2を参照
- その他 雨天等により点検を中止する場合があります。

報道機関の皆様へ

- 取材を希望される場合は、駐車場を確保することから
見学会前日の17時まで、下記の問い合わせ先(上村、村田)へ連絡願います。

取材希望及び橋梁①~④に関する問い合わせ先
国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
代表電話 0985-24-8221
技術副所長 徳田 浩一郎 (内線205)
保全対策官 上村 哲也 (内線404)

橋梁⑤に関する問い合わせ先
国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所
代表電話 0982-31-1155
技術副所長 中川 英一 (内線205)
道路管理課長 村田 茂男 (内線431)

橋梁点検現場見学会 位置図

別紙-1



橋梁点検現場見学会 位置図

別紙-1



市町村支援(橋梁点検現場見学)



12月5日から19日まで、県内5箇所にて60名を超える参加者で橋梁点検現場見学を実施。

市町村支援(橋梁点検現場見学)

■よかった点

- ・近接目視で橋梁を見ることができ、点検方法や損傷の程度を確認することができた。
- ・打音検査の実習を行い、剥離の状況など理解できた。
- ・点検道具の使用方法が学べた。
- ・写真の撮り方の留意点を学べた。
- ・損傷原因等を現場状況から判断した時のコンサルタントの考えを聞いたこと。
- ・講師を沢山準備して頂き、質問しやすかった。
- ・国の点検から補修までのスケジュールが大筋で参考になった。

■よくなかった点

- ・コンサルが実際に点検する状況を見学できれば良かった。
- ・クラック等が判別しにくい箇所があり、解りにくかった。
- ・出来れば、未補修の橋梁(市町村管理橋梁とか)で実施すると良かったと思う。
- ・案内をもう少し早くいただきたかった。
- ・橋梁規模が実際携わる橋梁と違いがあること。
- ・交通量が多く、騒音がひどかった。
- ・すでに修復され、ひび割れ等が小さく分かりにくかった。

市町村支援(橋梁点検現場見学)

■改善してもらいたい点

- ・緊急対応(E1, E2)が必要な橋梁の損傷の程度を見たかった。
- ・どの程度まで損傷すると緊急対応が必要なのか見てみたい。
- ・時間が短かったため、多くの損傷箇所が見れなかった。
- ・修繕箇所等の接写してある写真等あれば、現場確認等がより分かりやすいのでは。
- ・点検表への記入デモを行って欲しい。
- ・騒音で声が聞きづらかったので、拡声器などあれば助かります。
- ・補修計画が決まっていれば、その内容も聞きたかった。
- ・修復前の県や市町村有の橋梁等も見学の対象としていただきたい。
- ・橋梁全体を見て、どの部位にどのような損傷が発生するか、原因を含めて説明頂きたい。
- ・見学会の実施時間をもう少し長くとり、点検をより多く経験したかった。

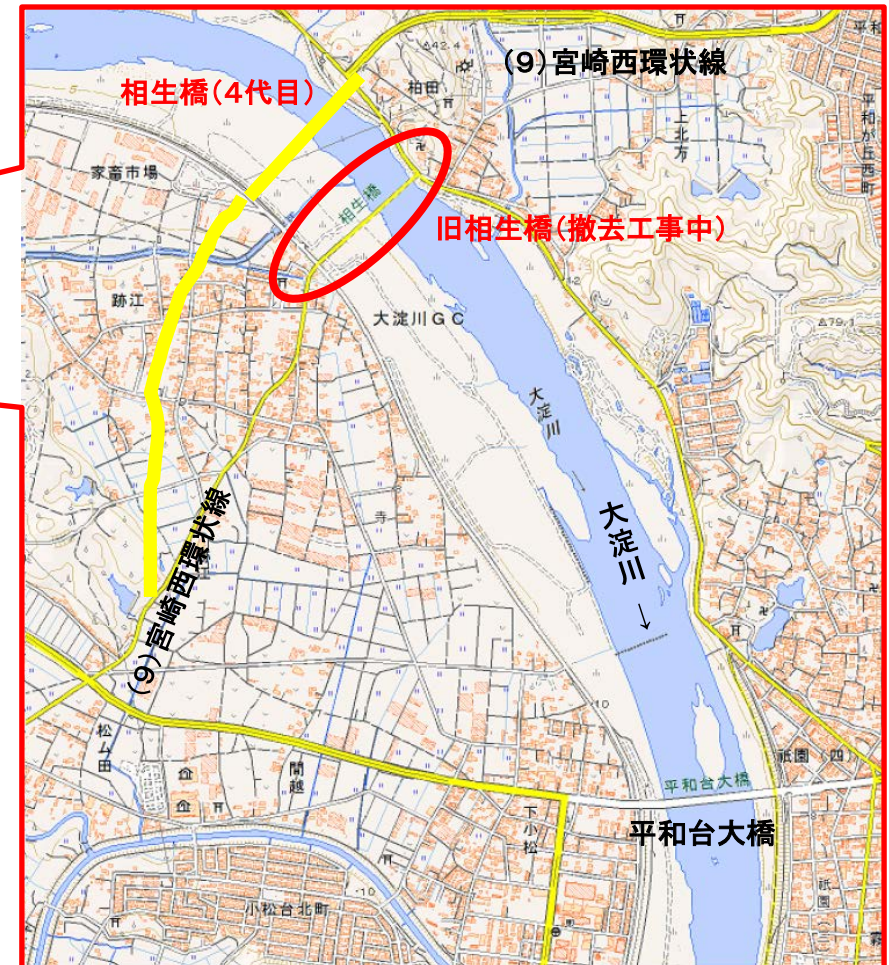
■その他

- ・点検要領が国と自治体で判断基準が違うので統一したほうが良いと感じた。
- ・同様の見学会や研修等継続して欲しい。
- ・コンクリート橋以外の点検があれば見学したい。(鋼橋など)
- ・出来れば、点検後の補修作業中を見学したい。
- ・市町村に多く架かる小規模な橋梁についても、見学会を実施してほしい。

貴重なご意見や要望を踏まえ、今後の橋梁点検現場見学の改善を行って行く予定。

老朽橋撤去箇所の橋梁現場見学会(案)

資料-2-2



旧)相生橋(撤去工事中) 位置図

老朽橋撤去箇所の橋梁現場見学会(案)



平成27年04月12日 撮影

宮崎県の実組(平成26年度宮崎県橋梁診断講習会)

資料-2-3

(1) 日南地区

場所: 宮崎県日南総合庁舎 日南土木事務所 1階 第5会議室

日時: 平成27年2月23日(月)13:00~16:50

対象者: 県・市町村職員

県内に主たる営業所(本店)を有する会社のうち、
測量設計業に従事している技術者 合計59名

講義①あいさつ

②橋梁点検について

③橋梁診断について

④質疑応答

現場(国道222号 本町橋)

①橋面と桁下の損傷の説明等

②現場試験(反発硬度試験、中性化試験(ドリル法))

③質疑応答



(2) 日向地区

場所: 宮崎県日向総合庁舎 日向土木事務所 1階 第1会議室

日時: 平成27年2月24日(火)13:00~16:50

対象者: 県・市町村職員

県内に主たる営業所(本店)を有する会社のうち、
測量設計業に従事している技術者 合計57名

講義①あいさつ

②橋梁点検について

③橋梁診断について

④質疑応答

現場(国道327号 富高橋)

①損傷の説明等

②現場試験(反発硬度試験、中性化試験(ドリル法))

③質疑応答



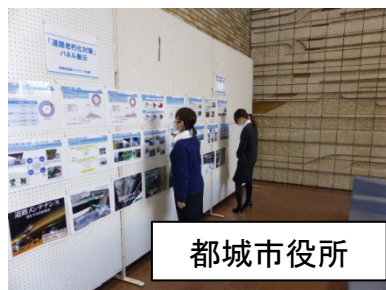
資料-2-4



日南市「まなびピア」



宮崎市 消防・防災フェスタ



都城市役所

宮崎県内での取組

道路老朽化対策パネル展

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| H26.07.16～07.31 | 10号道の駅はゆま |
| H26.10.27～ | 220号道の駅フェニックス (継続展示中) |
| H26.11.16 | 宮崎市消防訓練会場 |
| H26.11.29～11.30 | 宮崎県「土木の日」パネル展
イオンモール宮崎 |
| H26.11.27～12.09 | 日南市生涯学習センター「まなびピア」 |
| H26.12.07 | 宮崎市 消防・防災フェスタin生目の杜 |
| H26.12.16～12.26 | 都城市役所 庁舎1階ロビー |
| H27.01.19～01.30 | 10号道の駅つの |

■事務局からのお願い

道路利用者や地域住民などの皆様への更なる理解を促進するため、各自治体ロビーなど公共施設での道路老朽化対策パネルを展示して頂くよう検討をお願い致します。

パネルは事務局で準備致します。

詳細は事務局まで。(宮崎河川国道事務所 道路管理第二課 上村)

平成26年度 宮崎県内 「道路の老朽化対策」パネル展 実施一覧

場所	施設名及びイベント名	県庁、市役所、町村役場の所在地	実施時期	備考
宮崎市	国土交通省宮崎河川国道事務所		H26.11.10(月) ～ H26.12.26(金)	開催済み
	国道220号道の駅「フェニックス」3階展望室		H26.10.27(月) ～	展示中
	宮崎市防災訓練(宮崎市立広瀬中学校 佐土原町)		H26.11.16(日)	開催済み
	宮崎県「土木の日」パネル展(イオンモール宮崎)		H26.11.29(土) ～ H26.11.30(日)	開催済み
	宮崎市消防・防災フェスタ(生目の杜運動公園)		H26.12.07(日)	開催済み
都城市	都城市役所1階ロビー	都城市姫城町6街区21号	H26.12.16(火) ～ H26.12.26(金)	開催済み
延岡市	国道10号道の駅「北川はゆま」		H26.07.16(水) ～ H26.07.31(木)	開催済み
日南市	日南市生涯学習センター まなびピア 1階ロビー		H26.11.27(木) ～ H26.12.09(火)	開催済み
児湯郡 都農町	国道10号道の駅「つの」		H27.01.19(月) ～ H27.01.30(金)	開催済み

平成27年度 宮崎県内 「道路の老朽化対策」パネル展 展示場所及び開催日時 一覧

場所		施設名及びイベント名	県庁、市役所、町村役場の所在地	実施時期	備考
宮崎県			宮崎市橘通東2丁目10番1号	～	
宮崎市			橘通西1丁目1番1号	～	
都城市			姫城町6街区21号	～	
延岡市			東本小路2番地1	～	
日南市			中央通1丁目1番地1		
小林市			細野300番地	～	
日向市			本町10番5号	～	
串間市			大字西方5550番地	～	
西都市			聖陵町2丁目1番地	～	
えびの市			大字栗下1292番地	～	
北諸県郡	三股町		五本松1番地1	～	
西諸県郡	高原町		大字西麓899番地	～	
東諸県郡	国富町		大字本庄4800番地	～	
	綾町		大字南俣515番地	～	
児湯郡	高鍋町		大字上江8437番地	～	
	新富町		大字上富田7491番地	～	
	西米良村		大字村所15番地	～	
	木城町		大字高城1227番地1	～	
	川南町		大字川南13680番地1	～	
	都農町		大字川北4874番地2	～	
東臼杵郡	門川町		本町1丁目1番地	～	
	諸塚村		大字家代2683番地	～	
	椎葉村		大字下福良1747番地20	～	
	美郷町		西郷区田代1番地	～	
西臼杵郡	高千穂町		大字三田井13番地	～	
	日之影町		大字岩井川3398番地の1	～	
	五ヶ瀬町		大字三ヶ所1670番地	～	